

〈解答〉

- ① 1 御恩
2 イ
3 (1) ア (2) ウ
4 (1) イ (2) ①：将軍 ②：朝鮮通信使〔通信使〕
5 株仲間
6 寺子屋

配点 6は2点, 各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 鎌倉幕府は、家来となることを誓った武士を御家人にして、御恩として先祖から引きついできた領地の支配を認め、てがらに依りて新たな領地や守護・地頭の職をあたえた。御家人たちは、将軍に忠誠を誓い、幕府や京都の御所を警備し、戦いがおこったときに、生命をかけて軍役の義務を果たす奉公をした。
- 2 平清盛は、日宋貿易に力を入れ、航路の安全を確保するために瀬戸内海の航路を整え、大輪田泊（兵庫県神戸市）を修築した。アは源頼朝の妻の北条政子の父である北条時政である。ウは徳川家康，エは白河上皇である。
- 3(1) イの土倉とエの酒屋は金融業者で、これらが納める税は、室町幕府の有力な財源であった。ウの問〔問丸〕は運送業をかねた倉庫業者である。
- (2) 高麗が滅び、朝鮮国がおこったのは1392年で、日本では南朝と北朝が統一された年である。アは1271年で、日本では元軍が九州北部に攻めてきた1274年の文永の役の3年前である。イは1644年で、日本では鎖国の体制が固まった数年後のことである。エは676年で、日本では飛鳥時代のことである。
- 4(1) 豊臣秀吉は、明の征服をめざして、1592年と1597年の2回にわたって朝鮮に大軍を派遣した。1598年に秀吉が病死したのを機に全軍が引きあげ、朝鮮侵略の失敗は、豊臣氏が滅ぶ原因の一つとなった。ア百濟は660年に新羅と唐の連合軍に滅ぼされた。663年に日本は百濟を救うために大軍を送ったが、新羅と唐の連合軍に敗れた。これを白村江の戦いという。ウ1875年、日本軍艦が朝鮮半島西海岸の江華島付近の水路調査を名目に領海に侵入して、朝鮮側に砲撃された。日本はこ

れを利用して軍事的な圧力をかけた。これを江華島事件という。この結果、不平等な内容の日朝修好条規を結び、朝鮮を開国させた。エ4世紀の終わりごろ、大和政権は百済や伽耶〔任那〕地域の国々と結んで、高句麗や新羅と戦った。このことは好太王〔広開土王〕の碑に記されている。

(2) 豊臣秀吉の朝鮮侵略以来、朝鮮との国交はとぎれていたが、対馬藩の努力で国交が回復し、日本の将軍の代わりごとなどに、朝鮮通信使〔通信使〕が日本に派遣される慣例になった。

5 問屋や仲買などの大商人が、株仲間という同業者組織をつくり、幕府の許可を得て営業を独占した。水野忠邦の天保の改革では、物価の上昇をおさえるため、営業を独占している株仲間に解散を命じた。

6 寺子屋は、江戸時代の庶民の教育施設で、読み・書き・そろばんなど日常生活に必要なことを教えた。江戸時代後期に急速に普及した。